



## IFALPA LEG COMM MTG in Jerusalem 出席報告

### 1. 概要

2019年9月11～12日の2日間、イスラエル・エルサレムにおいて IFALPA Legal Committee Meeting が開催されました。今 MTG には9か国から各国弁護士やオブザーバーを含めた18名が出席、ALPA Japan からは LEG 委員長を含む2名が出席しました。

今回、これまで複数の IFALPA Statement 発行など、JAL 解雇問題に力強く対応していただいた弁護士で米国 ALPA メンバーが引退、さらに German ALPA の LEG 委員長が退任となりました。そして新たにイスラエル ALPA メンバーが新委員長に就任し、スペイン ALPA と米国 ALPA の両弁護士を副委員長とした新体制が発足しました。



### 2. 主な議題と討論内容

#### ・「フライトデータの保護」(ICAO Data and Safety Information Protection Policies)

米国 ALPA の LEG 副委員長から、フライトデータ保護に関する各国の状況報告と課題整理に関するプレゼンテーション、それに引き続く、Discussion が実施されました。これは ALPA Japan LEG 委員会が問題提起を行った課題であり、日本やアジア諸国における実情を踏まえ、将来におけるフライトデータに関する事故・インシデント調査以外での目的外使用に関わる課題と懸念を表明しているものです。

#### ・「無人機と一人乗り運航」(Remotely Piloted Aircraft System Integration and Single Pilot Operations)

無人航空機の運航がもたらす種々の課題、及び航空機の一人乗り運航に関わる課題について、幅広く現状の認識及び今後の問題点などについての議論が行われました。

#### ・「薬物とアルコールの各国基準」(Drug & Alcohol Testing : Member State policies)

薬物及びアルコール規制に関して世界的に厳格化の動きがある中、日本における現在の基準の在り方や検査運用方法は、各国と比較して特異であることが確認できました。

### ・「女性パイロット」(Female Pilots Working Group Report)

SEPLA (スペイン ALPA) 所属の LEG 副委員長から、女性パイロット Working Group に関する活動の報告がありました。将来的には、日本の女性パイロットにもこの Working Group への参加が望まれます。

### ・「各国 ALPA 報告と討論」

世界各国における航空事業の景気動向が上向きや横這いなど様々に推移する中、各国 ALPA から状況や課題の報告がありました。総じて、航空技術の発展や航空自由化に対する圧力が現場に押し寄せているという点では共通でした。

### ・IFALPA I-Manual の改訂を含む、課題に対応した Working Group の必要性

国際的な問題を解決する法律面からのアプローチは、定例の LEG COMM MTG では不足していることから、各課題に特化した Working Group を充実させることの重要性を確認しました。ALPA Japan もこれらに積極的に参加することが求められます。

## 3. ALPA Japanのプレゼンテーション

今般、ALPA Japan LEG 委員会は以下の4点について報告を実施しました。

- ① 日本における少子高齢化問題と現場人員の不足、Fatigue Risk Management 発効等の報告
- ② JAL 解雇問題の現状報告、IFALPA Statement の発行と国土交通大臣及び日本航空社長への要請 (今回で4度目の要請)
- ③ アルコール検査の強化策に関する報告
- ④ 精密化が進んでいる Flight Data の事故インシデント等、事故調査以外への利用拡大に関する懸念表明

その結果、各出席者から多くの意見や提案をいただくことが出来ました。

- ① & ③ → 情報を集約し、11/12 - 14 の日程で東京において開催される IFALPA HUPER COMM MTG などで詳細の報告と議論が実施される予定
- ② → 本 MTG で了承が得られ、IFALPA 本部において発行手続きを進める
- ③ → Working Group を設立、IFALPA として対応予定

## 4. 所感

ALPA Japan LEG 委員会は、グローバルな調和が必要な民間航空事業において、引き続き IFALPA 加盟各国 LEG メンバーとの信頼関係を保持しながらプレゼンスを維持し、「世界基準」と「日本の現状」の比較検討を行い、日乗連加盟組合との調整を取りながら「あるべき基準や将来像」を追求していきます。



以上